

平成30年度京都市景観市民会議の結果概要

- 1 日 時 平成30年9月29日（土）午後2時から午後5時
- 2 場 所 下京区役所4階会議室
- 3 テーマ 新景観政策の更なる進化
- 4 プログラム

第1部 話題提供

・話題提供① 京都市

「持続可能な都市構築プラン（仮称）」骨子案の市民意見募集について
「京都市新景観政策の更なる進化検討委員会」について

・話題提供② 門内 輝行 氏（大阪芸術大学教授、京都大学名誉教授）

京都市の景観政策と「新景観政策10周年記念事業」について

第2部 ワークショップ

参加者を5テーブルに分け、各テーブルは市民公募委員3～4名、景観デザイン会議の専門家1名、ファシリテーター1名の計5名程度で構成。前半に持続可能性につながる『京都が大切にする価値観』を、後半にそれを軸とした『新景観政策の更なる進化』について意見交換しました。

第3部 全体会議



第1部 話題提供



第2部 ワークショップ



第2部 グループ発表



第3部 全体会議

平成30年度京都市景観市民会議 委員名簿

(敬称略)

区 分		氏 名	所属等
トータルコーディネーター		もんない てるゆき 門内 輝行	大阪芸術大学教授, 京都大学名誉教授
グループA	市民公募委員	たお げんた 峠 元太	
		たにぐち おきひで 谷口 興紀	
		ますだ しょうぞう 増田 省三	
	京都市景観デザイン会議	にしだ のりこ 西田 教子	一般社団法人 京都府建築士会
	ファシリテーター	たけやま なおゆき 竹山 奈乙雪	NPO法人 京都景観フォーラム
		ふじもと なほこ 藤本 奈保子	NPO法人 京都景観フォーラム
グループB	市民公募委員	こにし ひろし 小西 宏之	
		さいとう なのこ 斎藤 菜乃子	
		むらかみ たけし 村上 岳	
	京都市景観デザイン会議	しもにし いさお 下西 伊佐男	京都府建築家協同組合
	ファシリテーター	あおやま ゆうこ 青山 優子	NPO法人 京都景観フォーラム
グループC	市民公募委員	いがらし あつこ 五十嵐 敦子	
		つじの たかお 辻野 隆雄	
		わだ よしひさ 和田 嘉久	
	ファシリテーター	かさはら けいし 笠原 啓史	NPO法人 京都景観フォーラム
グループD	市民公募委員	にしの ひろよし 西野 廣好	
		ふじばやし たくみ 藤林 匠	
		まつお いさこ 松尾 伊佐子	
	京都市景観デザイン会議	はにゅうだ ひでお 羽生田 英雄	一般社団法人 京都建築設計監理協会
	ファシリテーター	とおしま かずえ 遠島 和恵	NPO法人 京都景観フォーラム
グループE	市民公募委員	あだち ますみ 安達 眞澄	
		あやべ ともひろ 綾部 友宥	
		かんべ あきら 神戸 啓	
	京都市景観デザイン会議	なわ ひろまさ 名和 啓雅	一般社団法人 京都府建築士事務所協会
	ファシリテーター	たかはし ひろみ 高橋 裕美	NPO法人 京都景観フォーラム

景観市民会議で出された主な御意見

第2部 ワークショップでの各テーブルで出された御意見

(グループA)

- ・地域住民が伝える神事や祭事（特に地蔵盆など）を通じて，移住者と地域住民とが接触する機会が生まれている。
- ・京都市のもつ魅力，その発信の仕方を工夫することで，住みたくなるまちとなり，更に他地域からの移住へ繋がる。

(グループB)

- ・京都らしいコミュニティーからの小さな景観(防災用のバケツ，路地のヒューマンスケール等)が，街並みの美しさと親しみやすさを生み出し，美しい景観になっている。
- ・今までの景観制限は一定の成果があったと思う。次は小さな地域からの京都らしい景観を認識し，点から面への全体の景観を整える仕組みがほしい。

(グループC)

- ・三山は京都らしさとして大事にしたいもの。また，伝統的な建造物や町並みを残す理由も改めて考える必要がある。
- ・こうしたものを守りながら，新しいものをどう受け入れていくかということを，地域が考えて決めていける仕組みが必要。
- ・そのためには，専門家の育成や行政の支援も必要。

(グループD)

- ・建物も大事だがそこでの暮らし方も大事。
- ・町家の良さを伝え，理解してもらう取組が大切。

(グループE)

- ・だんだん五山の送り火が見えにくくなってきたので，そこは守っていきたい。
- ・職住が一体となった地域での暮らし，昔からのコミュニティーを守っていきたい。
- ・この10年間で京都はいろいろな開発があったので，新景観政策の制度面等を振り返る必要もある。

第3部 全体会議で出された御意見

- ・一軒一軒の敷地だけで問題を解くというのには無理があるため，両側町程度のヒューマンスケールのエリアで問題を考えていく必要がある。
- ・京都には，大学がたくさんあり，人的資源が多く集まっている。その宝物を活かしてクリエイティブな都市にしていくという意味で，エリアで考え，コミュニティーで考え，文化で新しい経済をやることを先導していく可能性に満ちた都市。それを阻害しないように，みんなで作っていけるような制度を設計するというのが更なる景観の進化。規制法から創造法へという方向で考えていく。